

平成28年度大学図書館職員長期研修講義
「大学と大学図書館」

平成28年7月4日（於・筑波大学）

東北大学理事・附属図書館長

植木 俊哉

1. 「大学と大学図書館」——その社会的役割：「立ち位置」の自覚と再認識

- (1) 「大学」とは何か？——社会における位置づけと役割：歴史的・国際的視点から
- (2) 「大学図書館」とは何か？——他の公共図書館との共通点と相違点
⇒「大学図書館」の正確な「自画像」の把握：任務や改革の方向性の原点

2. 「国立大学法人化」（平成16年4月）以降の「国立大学」の変容

- ・「大学の何がどう変わったか」に関する正確な認識が必要
- ・「変えなければならないこと」「守り続けなければならないこと」を識別する知見の重要性

3. 「大学改革」の中で高まる「大学図書館」に期待される役割

- (1) 教育・学習 ①学生の学修形態の変化と発展：Active Learning の場として
～図書館職員による教育活動への主体的関与、教員との連携
②社会人(再)教育の場としての期待の増大
- (2) 研究——電子ジャーナル、機関リポジトリ、オープンアクセスへの対応
～URA との連携等による教員の研究活動に対する協力・貢献
- (3) 社会貢献・社会連携——大学と社会・地域とを繋ぐ「窓口」としての役割
- (4) 大学運営とマネジメント——大学運営全体の1つの重要な「ハブ」としての役割

4. おわりに——深化する「大学図書館」の役割と機能

- ・大学図書館の役割の変貌——「ピンチ」ではなく「チャンス」と捉えること
- ・図書館こそが「大学」での教育・研究・社会貢献・管理運営の「メインストリーム」に立つのだ、という気概と自覚を！